

名称 キョウカツ

他名等

部位等 根茎、根 備考

学名(科名) *Notopterygium incisum* Ting ex H.T. Chang, 又は *N. forbesii* Boissieu (Umbelliferae) セリ科 (局方)

生薬名、基原植物和名等 生薬名 羌活

医薬品として使用実態があるか Yes 局方 (14 局第一追補)

毒性データ (LD50 等) extract, LD50 2830 mg/kg oral mouse

pregnenolone の TDL0, 20 mg/kg

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの (類似化合物も含む) 及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

coumarins, : *Yaoxue Xuebao* (1995), 30(4), 274-9, *Chemical & Pharmaceutical Bulletin* (1990), 38(9), 2498-502

pregnenolone (女性ホルモン用作用あり) を 0.02% 含む 近大薬久保、松田ら

主要な生理活性

antibacterial activity: *Natural Medicines* (Tokyo, Japan) (2002), 56(3), 113-116

cytotoxicity : *Bioscience, Biotechnology, and Biochemistry* (1999), 63(8), 1501-1502

重要文献

その他注意すべき点

中国語文献多数 CA24 報

基原植物の混乱、独活との混乱がある。中国では羌活は、*N. incisum* Ting ex H.T, Chang or *N. forbesii* Boiss (CP) を基原とする。

Botanical Safety Handbook class 1

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ)

評価 : A

局方収載医薬品であり、女性ホルモン用作用をもつ pregnenolone を比較的少量に含む。

名称 キョウニン

他名等 アンズ、クキョウニン、ホンアンズ 英名 apricot kernel (局方)

部位等 種子 備考 カンキョウニンは非医

学名(科名) ①*Prunus armeniaca* L ②*Prunus armeniaca* L. space var. space ansu Maxim. (Rosaceae) バラ科
(局方)

生薬名、基原植物和名等 ①ホンアンズ ②アンズ 生薬名 杏仁

杏仁には、甜杏仁と苦杏仁の別があるが、種子のアミグダリン両が前者 0.111%、後者 3.0%という違いだけで、植物形態学的な違いはない。(難波和漢薬)

医薬品として使用実態があるか Yes 局方

毒性データ (LD50 等) TDL0 300mg/kg woman, oral

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

Prunasin (Cyanogenic glycoside) Reproductive effects, oral, hamster, TDLo 177 mg/kg, 8 days, preg amygdalin

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

主要な生理活性

鎮咳、去痰

重要文献

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook class 3 (seed) to be used only under the supervision of expert

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ)

BSH の記述は、要指示医薬品と考えられる

評価 : A

局方収載医薬品であり、青酸配糖体 (Prunasin) を含むこと、及び要指示医薬品に相当する BSH での使用上の注意がある。

名称 キンリュウカ

他名等 ストロファンツス

部位等 種子・木部 備考

学名(科名) *Strophanthus caudatus*? この学名がキンリュウカ(金竜花)と対応するのか(ネット上で一件だけあり)。キョウチクトウ科 (Apocynaceae) キンリュウカ属との表記は、牧野和漢薬で *S. hispidus* DC. (ストロファンツス・ヒスピプス)、*S. kombe* Oliv. (ストロファンツス) に対し行われている。赤松、中薬大辞典にもキンリュウカは記載なし。中薬大辞典では、同属では、*S. divaricatus* (Lour) Hook et Arn. のみ収載

生薬名、基原植物和名等 上述

医薬品として使用実態があるか No

毒性データ (LD50 等)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

strophanthidin cat LD100 0.337 mg/kg i.v. strophanthin rat i.v. LD50 15mg/kg 強心配糖体

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

強心配糖体

主要な生理活性

強心

重要文献

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook なし

Commission E 無記載

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ)

評価: A

劇薬相当の活性を持つ強心配糖体及びアグリコンを含む。キンリュウカとするより、名称をキンリュウカ属とすべき。

名称 グアシャトンガ

他名等 伯名 Guaçatonga (ブラジル産薬用植物事典)

部位等 葉 備考

学名(科名) *Casearia sylvestris* Swartz (Flacourtiaceae) イイギリ科 ブラジル産薬用植物事典(橋本)

生薬名、基原植物和名等 グアッサトンガ (ブラジル産薬用植物事典)

医薬品として使用実態があるか No

毒性データ(LD50 等)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

主要な生理活性

重要文献

Antitumor principles from *Casearia sylvestris* (Flacourtiaceae) ~; Itokawa, H. *et al.*, *Chem. Pharm. Bull.* 36(4) 1585 (1988).

New antitumor principles ~; Itokawa, H., *et al.*, *Chem. Pharm. Bull.* 38(12) 3384-3388 (1990)

Structure and cytotoxic activity of casearins, ~; Morita, H. *et al.*, *Chem. Pharm. Bull.* 39(3) 693-697 (1991)

その他注意すべき点

グアシャトンガは、類縁の同族植物から、podophyllotoxin (抗悪性腫瘍剤、生薬 ポドフィルム)の活性成分)類縁体がかかなりの量単離されていること、もともと、抗腫瘍活性がある植物であること、エタノール抽出液は、マウスの Sarcoma 180 腹水ガンに対し、100mg/kg/day の dose で強い活性(87%阻害)また、単離された成分の多くは、Chinese hamster の lung cell (V-79cell) に対して、LD50 が 1 μM 以下の強い活性を示していることから、H14 年 11 月に専ら医薬品と判断された。

Botanical Safety Handbook 記載なし

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか(情報がある場合のみ)

評価: A

類縁の同族植物から、podophyllotoxin 類縁体がかかなりの量単離されていること。抗腫瘍活性がある植物であること。

名称 クジン

他名等 クララ

部位等 根 備考

学名(科名) *Sophora flavescens* Aiton (Legminosae) マメ科 (局方)

生薬名、基原植物和名等 クララ (局方) 生薬名 苦参 (局方)

医薬品として使用実態があるか Yes 局方

毒性データ (LD50 等) i.p. mouse LD50 301mg/kg

matrine, ip, rat, LD50 125 mg/kg; iv, mouse, LD50 64.85mg/kg

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

matrine (Quinolizidine alkaloid).

oxymatrine, sophoranol, anagyrene, methylcytisine, baptifoline, sophoracarpine

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

matrine, oxymatrine, sophoranol, anagyrene, methylcytisine, baptifoline, sophoracarpine (難波和漢薬)

主要な生理活性

解熱、利尿、駆虫、苦味健胃、消炎止瀉、たむし、水虫、ただれ

重要文献

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook class 1, occasional side effects such as mild dizziness, nausea, vomiting and constipation may occur

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか(情報がある場合のみ)

評価: A

局方収載医薬品であり、有毒アルカロイドを含む。

名称 クスノハガシワ

他名等

部位等 樹皮 備考

学名 (科名) *Mallotus philippinensis* (Lamarck) Muell. Arg. (Euphorbiaceae) トウダイグサ科 アカメガシワ 属 (日本の野生植物、平凡社) 奄美諸島以南の琉球に自生 常緑広葉樹 中国南部、台湾をはじめ広く熱帯アジア、オーストラリアに分布

生薬名、基原植物和名等 クスノハガシワ (日本の野生植物、平凡社)

医薬品として使用実態があるか No

毒性データ (LD50 等) oral, rat, TDL0 1.6g/kg 8d pre, i.p. mouse LD >1g/kg

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか

Naturwissenschaften 25, 460 (1937)にアルカロイド単離の報告があるが、論文が古く、またそれ以後全く単離の報告がないので、アーティファクトか他の構造である可能性が高い。

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの (類似化合物も含む) 及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

polyphenol, dimeric cahlcone; *Phytochemistry* (1998), 48(8), 1423-1427, 岐阜薬大; kamaladiol-3-acetate, *Phytochemistry* (1993), 32(2), 407-9; prenylated flavanoids *Indian Journal of Chemistry, Section B: Organic Chemistry Including Medicinal Chemistry* (1988), 27B(3), 238-41

Chemical constituents and biological activity of genus *Mallotus* (Euphorbiaceae): *Foods & Food Ingredients Journal of Japan* (1997), 171, 68-75, Arisawa, Munehisa

Tannins and related compounds. LXXXVIII. Isolation and characterization of hydrolyzable tannins from *Mallotus japonicus* (Thunb.) Mueller-Arg. and *M. philippinensis* (Lam.) Mueller-Arg 九大薬西岡先生、*Chemical & Pharmaceutical Bulletin* (1989), 37(11), 2940-7

なお、平成16年度の報告書 (p24-31) で詳しく文献調査を行っている。

主要な生理活性

育毛剤原料、抗アレルギー活性

Anti-allergic agents from natural sources (4): Anti-allergic activity of new phloroglucinol derivatives from *Mallotus philippensis* (Euphorbiaceae), Daikonya, Akihiro; Katsuki, Shigeki; Wu, Jin-Bin; Kitanaka, Susumu, College of Pharmacy, Nihon University, Chiba, 274-8555, Japan, *Chemical & Pharmaceutical Bulletin* (2002), 50(12), 1566-1569

重要文献

その他注意すべき点

果実の表皮に生じた腺毛、束毛からカマラ (駆虫剤、小城製薬輸入承認あり) がとれる。

Botanical Safety Handbook なし

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ)

評価: C アルカロイドの含有について、引き続き調査が必要である。

名称 グラビオラ

他名等 サーサップ、トゲバンレイシ、オランダドリアン

部位等 種子 備考 果実は「非医」

学名(科名) *Annona muricata* L. (Annonasae) バンレイシ科 [園芸植物大事典3 p386, ブラジル産薬用植物事典 p44]

生薬名、基原植物和名等 トゲバンレイシ、オランダドリアン [園芸植物大事典3 p386]

グラビオラの名称はトゲバンレイシのブラジル語名 (*graviola*) [ブラジル産薬用植物事典 p44]、また他名等のサーサップはトゲバンレイシの英名 (*soursop*) [園芸植物大事典3 p386] に由来するものと考えられる。

医薬品として使用実態があるか No (ただしブラジルでは民間薬としての使用実態がある)

毒性データー (LD50 等) extract : i. p. LD50 178 mg/kg, mouse

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

annomuricatins A and B (cyclic peptide) [C-M. Li, *et al.*: *Yunnan Zhiwu Yanjiu*, 17, 459-462 (1995)], anomuricine (benzylisoquinolin type) [M. Leboeuf, *et al.*: *Planta Med.* 42, 37 (1981)]

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか No
主要な二次代謝産物等

annocatalin [C-C Liaw, F-R Chang, C-Y Lin, C-J Chou, H-F Chiu, M-J Wu, Y-C Wu : *J. Nat. Prod.*, 65, 470-475 (2002)], annohexocin, annomuricatins A and B, annomuricin A, annopentocin A, anomuricine, cohibins A-D, coronin, donhexocin, epoxyurin A, muricatacin, muricatalicin, muricatalin, muricins A-E

主要な生理活性

95%エタノールエキスはherpes simplex virus-1に対して抗ウイルス活性を示した。また、本植物より単離されたacetogeninsはヒト肝細胞に対し細胞毒性を示した [P. Padma, N. P. Pramod, D. P. Thyagarajan, R. L. Khosa: *Journal of Ethnopharmacology*, 61, 81-84 (1998)]。

重要文献

1) C-M. Li, *et al.*: *Yunnan Zhiwu Yanjiu*, 17, 459-462 (1995)

2) M. Leboeuf, *et al.*: *Planta Med.* 42, 37 (1981)

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook : 無記載

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ)

評価 : A

ベンジルイソキノリンアルカロイド成分を含有しているため安全性に十分な配慮が必要であり、専ら医薬品と考えられる。

名称 グリフォニア・シンプリシフォリア

他名等

部位等 種子 備考

学名 (科名) *Griffonia simplicifolia* Baill. (Leguminosae) マメ科 [The International Plant Names Index]

生薬名、基原植物和名等

医薬品として使用実態があるか No

毒性データー (LD50 等) 5-hydroxytryptophan : 243mg/kg (LD50, rat, orl)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

5-hydroxytryptophan [Rehr, S. S., *et al.*, *Biochemical Systematics*, 1(1), 63-7 (1973)], griffonin [D. Dwuma-Badu *et al.*: *J. Nat. Prod.*, 39, 213 (1976)]

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの (類似化合物も含む) 及びその原料植物であるか Yes

5-hydroxytryptophan

主要な二次代謝産物等

griffonilide, 5-hydroxytryptophan, griffonin

主要な生理活性

5-hydroxytryptophanはセロトニンの前駆物質として抗うつ薬の治療に試用されたことがある。またある種の不随意運動 (myoclonus) にも有効である [南山堂医学大辞典p 1755]。

重要文献

1) Rehr, S. S., *et al.*: *Biochemical Systematics*, 1(1), 63-7 (1973)

2) D. Dwuma-Badu *et al.*: *J. Nat. Prod.*, 39, 213 (1976)

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook : 無記載

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ)

評価 : A

劇薬相当の 5-hydroxytryptophan を含み、また向精神作用を有するため安全性に十分な配慮が必要であり、専ら医薬品と考えられる。

名称 ケイガイ

他名等 英名 schizonepeta spike [局方]

部位等 全草 備考

学名(科名) *Schizonepeta tenuifolia* Briquet (Labiatae) シソ科 [局方]

生薬名、基原植物和名等 ケイガイ [局方] 生薬名：荊芥穂 [局方]

医薬品として使用実態があるか Yes 局方(ただし日本薬局方での使用部位は花穂)

配合処方：駆風解毒湯、荊芥連翹湯、荊防敗毒散、五物解毒散、十味敗毒湯、消風散、清上防風湯、川弓茶調散、治頭瘡一方、当帰飲子、防風通聖散(11 処方)

毒性データー(LD50 等) 急性毒性データーRTECS 無し。

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

d-menthone, *l*-pulegone, *l*-isomenthone, *d*-limonene, α -, β -pinene, camphene, piperitone, caryophyllene, β -elemene, β -humulene [藤田真一、藤田安二：薬誌93, 1622 (1973)], schizonepetosides A-E [H. Sasaki, H. Taguchi, *et al.*: *Chem. Pharm. Bull.*, 29, 1636 (1981), 34, 3097 (1986)], apigenin-7-glucoside, luteolin-7-glucoside, hesperidin

主要な生理活性

精油分画は酢酸ライジング法で鎮痛、抗炎症作用を示し、この活性成分は鎮痛作用は*d*-menthone、抗炎症作用は*l*-pulegoneであると報告されている [山原篠二ら：薬誌100, 713 (1980)]。発汗、解熱、止血、駆風作用や腫毒を除去するなどの作用があるといわれ、単味もしくは処方中に応用される [新訂牧野和漢薬草大図鑑p 459]。

重要文献

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook：無記載

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか(情報がある場合のみ)

評価：B

局方収載の重要生薬で漢方処方にも配合されているため専ら医薬品と考えられる。

名称 ケシ

他名等 英名 opium poppy

部位等 全草（発芽防止処理された種子・種子油は除く）

備考 発芽防止処理された種子・種子油は「非医」

学名（科名）*Papaver somniferum* L. (Papaveraceae) ケシ科 [局方]

生薬名、基原植物和名等 ケシ [新訂牧野和漢薬草大図鑑 p 143]

医薬品として使用実態があるか Yes 局方（アヘン末として収載）

毒性データ（LD50 等）

morphine: TLD0 107mg/kg (mouse subcutaneous), thebaine: LD50 114mg/kg (rat oral); LD50 54mg/kg (mouse oral); LD50 20mg/kg (mouse ip)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

morphine, thebaine, codeine, papaverine, noscapine, protopine, cryptopine

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの（類似化合物も含む）及びその原料植物であるか Yes

morphine, thebaine, codeine（麻薬）

主要な二次代謝産物等

morphine, thebaine, codeine, papaverine, noscapine, protopine, cryptopine, meconin, meconic acid

主要な生理活性

モルフィンは中枢神経系に作用し、選択的に痛覚を鈍麻させ、呼吸を抑制する。大量に用いると脳の機能が麻痺し、陶酔、幻覚を起し、睡眠、昏睡状態になり、さらに大量で小脳、延髄、呼吸中枢の麻痺によって死に至る。そのため少量を鎮痛、麻酔、鎮咳薬として用いられるが、連用による習慣性が非常に強く、慢性中毒を起しやすいため麻薬の指定を受け、麻薬法によって一般の栽培、所持、使用は禁止されている [新訂牧野和漢薬草大図鑑]。

重要文献

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook : class 1 (seed)

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか（情報がある場合のみ）

評価：A

麻薬成分を含有し、安全性に十分な配慮が必要であり、専ら医薬品と考えられる。

名称 ケンゴシ

他名等 アサガオ

部位等 種子 備考 葉・花は「非医」、

学名(科名) *Pharbitis nil* Choisy (Convolvulaceae) ヒルガオ科 [局方]

生薬名、基原植物和名等 アサガオ [局方] 生薬名 牽牛子 [局方]

医薬品として使用実態があるか Yes 局方

毒性データ (LD50 等) 急性毒性データ無し。

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

pharbitin (樹脂配糖体) [Asahina, Y., Terada, S. X., *Yakugaku Zasshi* 452, 821 (1919)], ipurolic acid, gibberellenic acid, gibberellin derivatives, pharbic acid [H. Okabe, T. Kawasaki : *Tetrahedron Lett.*, 3123 (1970)]

主要な生理活性

煎剤をモルモットに経口投与した場合、3～4時間後に排便量が増加することが報告 [H. Ito: *Mie Med. J.* 14, 47 (1964)] されている。利尿、殺虫をかねた峻下剤、緩下剤として、下半身の水腫、尿閉症などに用いる。

重要文献

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook : 無記載.

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ)

評価 : A

樹脂配糖体の pharbitin は峻下作用があり、安全性に十分な配慮が必要であり、専ら医薬品と考えられる。

名称 ゲンジン

他名等 ゴマノハグサ

部位等 根 備考

学名(科名) ①*Scrophularia ningpoensis* Hemsl., ②*S. buergeriana* Miq. (Scrophulariaceae) ゴマノハグサ科 [局外生規]

生薬名、基原植物和名等 ①スクロフラリア・ニンポエンシス [新訂牧野和漢薬草大図鑑p 481], ②ゴマノハグサ [局外生規] 生薬名 玄参 [局外生規]

医薬品として使用実態があるか Yes 局外生規

配合処方：加味温胆湯（1 処方）

毒性データ（LD50 等）*S. ningpoensis* root, ethyl acetate extract: TDL0 75mg/kg (mouse oral)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの（類似化合物も含む）及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

① ningposides A-C, sibirioside A, cistanoside D, angoroside C, acteoside, decaffeoylacteoside, cistanoside F [Y-M. Li, S-H. Jiang, W-Y. Gao, D-Y. Zhu: *Phytochemistry*, 54, 923-925 (2000)], ningpogenin, ningpogosides A and B, 8-*O*-feruloylharpagide [J. Qian, D. Hunkler, H. Rimpler: *Phytochemistry*, 31, 905-911 (1992)], 8-*O*-(2-hydroxycinnamoyl)harpagide, 6-*O*- α -D-galactopyranosyl-harpagoside [Y-M. Li, S-H. Jiang, W-Y. Gao, D-Y. Zhu: *Phytochemistry*, 50, 101-104 (1999)]

②buergerisides A1, B1, B2 and C1, (*E*)-cinnamic acid, (*E*)-*p*-methoxycinnamic acid, (*E*)-*p*-methoxycinnamic acid methyl ester, (*E*)-*p*-coumaric acid, (*E*)-caffeic acid, (*E*)-ferulic acid and a phenylalcohol, 2-(3-hydroxy-4-methoxyphenyl)-ethanol [S-R. Kim, Y-C. Kim: *Phytochemistry*, 54, 503-509 (2000)], buergerinins F and G [S-J. Lin, S-H. Jiang, Y-M. Li, J-F. Zeng, D-Y. Zhu: *Tetrahedron Lett.*, 41, 1069-1071 (2000)]

主要な生理活性

① ゲンジンの浸剤、煎剤、エタノールエキスはネコ、ウサギなどの麻酔動物に対し血圧降下作用が認められ、その作用は煎剤が最も強い。ゲンジンは解毒、解熱、消炎薬として口渇、失眠、潮熱、盗汗、咽頭腫瘍、でき物、便秘などに用いられる [新訂牧野和漢薬草大図鑑]。

② (*E*)-*p*-methoxycinnamic acidはマウスにおいて抗健忘症作用を示した [S-R. Kim, S-Y. Kang, K-Y. Lee, S-H. Kim, G. J. Markelonis, T. H. Oh, Y-C. Kim: *Brain Res. Cogn. Brain Res.*, 17, 454-461 (2003)]。

重要文献

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook：無記載

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか（情報がある場合のみ）

評価：B

局外生規に収載され、漢方処方にも配合されていることから専ら医薬品と考えられる。

名称 ゲンチアナ

他名等 英名 gentian [局方], gentian root [Com E p 135]

部位等 根・根茎 備考 花は「非医」

学名 (科名) *Gentiana lutea* L. (Gentianaceae) リンドウ科 [局方, Com E]

生薬名、基原植物和名等 ゲンチアナ [新訂牧野和漢薬草大図鑑 p 405]

医薬品として使用実態があるか Yes 局方 Com E

毒性データ (LD50 等) swertiamatin: LD50 >1g/kg (mouse oral)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの (類似化合物も含む) 及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

gentiopicroside, swertiamarin, amarogentin [T. Kubota, Y. Tomita: *Bull Chem. Soc. Jpn.*, 34, 1345 (1961), H. Inouye, Y. Nakamura : *Chem. Pharm. Bull*, 18, 1856 (1970), H. Inouye et al.: *Tetrahedron Lett.*, 3221 (1967)], gentisin, isogentisin, gentisic acid, limonene, linalool, carvacrol, *cis*-linalyl oxide, α -terpineol [F. Chialva. et al.: *Z. Lebensm. -Untersxp. Forsch.*, 182, 212 (1986)]

主要な生理活性

苦味による食欲増進、胃液分泌と消化促進、また解熱、貧血の治療などに有効とされる。現在、苦味健胃薬の代表的な生薬で、消化機能低下、慢性胃炎などに用いられている。また神経強壮、痛み、裂傷などに効果がある [新訂牧野和漢薬草大図鑑]。

重要文献

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook : class 2d. Contraindicated in gastric and duodenal ulcers and when gastric irritation and inflammation are present.

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ)

評価 : B

局方に記載されており、ヨーロッパ等においても医薬品としての使用実態があるため専ら医薬品と考えられる。

名称 ゲンノショウコ

他名等

部位等 地上部 備考

学名(科名) *Geranium thunbergii* Siebold et Zucc. (Geraniaceae) フウロソウ科 [局方]

生薬名、基原植物和名等 ゲンノショウコ [局方]

医薬品として使用実態があるか Yes 局方

毒性データ (LD50 等) extract : oral LD50 10 g/kg 以上, mouse, rat

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

geraniin, quercetin, kaempferol, kaempferitrin

主要な生理活性

腸の平滑筋の緊張を増し、縦走筋の運動を著しく抑制する作用があり、心臓の搏動減少と調整作用がある。一般に大腸炎などによる下痢止め、健胃整腸剤に用いられるほか、腫れ物、しもやけの洗浄用とし、浴湯用にもする。また冷え性、高血圧予防にも用いられる [新訂牧野和漢薬草大図鑑 p 241]。

重要文献

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook : 無記載

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ)

評価 : B

局方に収載される代表的な民間薬であり、専ら医薬品と考えられる。

名称 コウブシ

他名等 サソウ、ハマスゲ

部位等 根茎 備考

学名(科名) *Cyperus rotundus* L. (Cyperaceae) カヤツリグサ科 [局方]

生薬名、基原植物和名等 ハマスゲ [局方] 生薬名：香附子 [局方]、莎草（サソウ） [新訂牧野和漢薬草大図鑑 p 599, 新訂和漢薬 p 610]

医薬品として使用実態があるか Yes 局方

配合処方：香砂平胃散、香砂養胃湯、香砂六君子湯、香蘇散、川芎茶調散、二朮湯、女神散等 (15 処方)

毒性データ (LD50 等) extract : i.p. LD50 50 mg/kg, rat

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの（類似化合物も含む）及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

α -cyperone, cyperotundone, cyperolone, cyperol, isocyperol, sugetriol, sugeinol, kobusone, isokobusone, patchchoulanyl acetate, sugeonil acetateなどのセスキテルペノイド、oleanoic acid, 3-O-(2-rhamnosylglucosyl)-oleanoic acidなどのトリテルペノイド

主要な生理活性

鎮痛作用及び子宮筋を弛緩させる作用が知られる。月経不順、生理痛、更年期障害、ヒステリー、慢性胃炎、十二指腸潰瘍、神経性胃炎などに広く用いられる。月経過多のものには用いてはならないとされている。 [新訂牧野和漢薬草大図鑑p 599]

重要文献

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook : class 1.

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ)

評価 : A

エキスが劇薬相当であることから安全性に十分な配慮が必要であり、専ら医薬品と考えられる。

名称 コウフン

他名等 コマントウ

部位等 全草 備考

学名(科名) *Gelsemium elegans* Benth. (Loganiaceae) マチン科 [中薬大辞典 p 753]

生薬名、基原植物和名等 コマントウ (胡蔓藤) [中薬大辞典 p 753] 生薬名：鉤吻 [中薬大辞典 p 753]

医薬品として使用実態があるか No (ただし中国では根及び根皮を薬用に用いている)

リウマチの痛み、湿疹、でき物、打ち身などに外用される。根にアルカロイドを含有する。有毒

毒性データー (LD50 等) extract: i.p. LD50 25 mg/kg, mouse

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

gelsemine, koumine, sempervirine [Janot, M. M. et al., *Annales Pharmaceutiques Francaises*, 11, 602-8 (1953)],

koumidine, akuammidine [Jin, H. et al., *Huaxue Xuebao*, 40(12), 1129-35 (1982)], gelsemoxonine [Kitajima, M. et al., *Organic Letters*, 5(12), 2075-2078 (2003)]

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

gelsemine, koumine, sempervirine, koumidine, akuammidine, gelsemoxonine

主要な生理活性

根、茎、葉にはいずれも劇毒がある。中毒のおもな症状は呼吸麻痺で、軽度の場合は呼吸困難、重度のものは呼吸停止で死に至る [中薬大辞典 p 753]。

重要文献

1) 中薬大辞典第2巻 p 753

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook : 無記載

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ)

評価 : A

有毒アルカロイドを多数含み、安全性に十分な配慮が必要であり、専ら医薬品と考えられる。

名称 コウボク

他名等 ホウノキ

部位等 樹皮 備考

学名(科名) ①*Magnolia obovata* Thunb., ②*M. officinalis* Rehder et Wilson, ③*M. officinalis* Rehder et Wilson var. *biloba* Rehder et Wilson (Magnoliaceae) モクレン科 [局方]

生薬名、基原植物和名等 ①ホウノキ [局方]、②カラホオ、シナホオノキ [新訂牧野和漢薬草大図鑑 p 69, 新訂和漢薬 p 433] 生薬名：厚朴 [局方]

医薬品として使用実態があるか Yes 局方

配合処方：胃苓湯、香砂平胃散、香砂養胃湯、五積散、神秘湯、桂枝加厚朴杏仁湯、柴朴湯等 (25 処方)

毒性データ (LD50 等)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

magnoflorine, magnocurarine, laurifoline, oblongine, menisperine, xanthoplanine [Moriyasu, M. et al., *Natural Medicines*, 50(6), 413-416 (1996)]

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

α , β , γ - eudesmol, magnonol, honokiol, ovobitol, magnoflorine, magnocurarine, laurifoline, oblongine, menisperine, xanthoplanine

主要な生理活性

マグノフロリン、サリシフォリン、マグノクラリンにクラーレ様の作用が認められたが、d-ツボクラリンに比べると極めて弱い。また神経節遮断作用、抗ポリカルピン作用、アドレナリン増強作用も認められる。エーテルエキスには中枢抑制作用、筋弛緩作用、各種痙攣薬に対する拮抗作用がある。ワコウボクは収れん、健胃、利尿、去痰薬として腹部膨満、腹痛、下痢、吐き気などに用いられる [新訂牧野和漢薬草大図鑑]。

重要文献

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook：無記載

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ)

評価：A

ベンジルイソキノリンアルカロイドを多数含み、安全性に十分な配慮が必要であり、専ら医薬品と考えられる。

名称 コウホン

他名等

部位等 根・根茎 備考

学名(科名) ①*Ligusticum sinense* Oliv., ②*L. jeholense* Nakai et Kitag. (Umbelliferae) セリ科 [局外生規]

生薬名、基原植物和名等 ①コウホン [新訂和漢薬 p 197]、②ムレイセンキュウ [新訂牧野和漢薬草大図鑑 p 364] 生薬名: ①蒿本 [局外生規, 新訂牧野和漢薬草大図鑑]、唐蒿本 [局外生規]、②遼蒿本 [新訂牧野和漢薬草大図鑑]

医薬品として使用実態があるか Yes 局外生規

鎮痛、鎮痙に、コウホン 1 日量 3~9g を煎じて服用する。この煎液で皮膚病の患部を洗うかまたは粉末とし、患部に塗布するとよい [新訂牧野和漢薬草大図鑑]。

配合処方: 秦九姜活湯、清上蜀痛湯 (2 処方)

毒性データ (LD50 等) *L. sinense* root extract: LD50 42.5 mg/kg (mouse ip)

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

bisabolangelone, ligustiphenol, butylidenphtalide, cnidilide

主要な生理活性

ブチリデンフタライド、クニジライドなどには、抗炎症、通経、鎮痙などの作用があるといわれる。コウホンの水製エキスは数種の皮膚真菌に対し、比較的強い、抗菌作用が認められる。コウホンは鎮痛、鎮痙薬として頭痛、腰痛、寒湿による腹痛、下痢、婦人病の諸痛に用いられるほか、疥癬などの皮膚病に外用する [新訂牧野和漢薬草大図鑑]。

重要文献

その他注意すべき点

ワコウホンとしてヤブニンジン *Osmorhiza aristata* (Thunb.) Makino et Yabe があるが、現在ではほとんど生産されていない。

Botanical Safety Handbook : class 1

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ)

評価: A

エキスに劇薬相当の毒性があり、安全性に十分な配慮が必要であるため専ら医薬品と考えられる。

名称 コオウレン

他名等

部位等 茎・根茎 備考

学名(科名) ①*Picrorhiza kurrooa* Royle ex Benth. ②*P. scrophulariaeflora* Pennell (Scrophulariaceae)

ゴマノハグサ科 [中薬大辞典 p 790]

生薬名、基原植物和名等 ①コオウレン [新訂和漢薬 p 90] 生薬名：胡黄連 [中薬大辞典 p 790]

医薬品として使用実態があるか No

インドのカシミールからシッキムに至る標高 3000～5000m のヒマラヤ山系に分布し、健胃、緩下、駆虫に用いる。

毒性データ (LD50 等) extract : oral LD50 1288 mg/kg, mouse

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか No

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

catalpol derivatives, acetovanillone, picrorhizin, kutikin, cucurbitacin derivatives, pikroside

(平成 16 年度の報告書も参考のこと)

主要な生理活性

未詳。臨床面ではコオウレン、オウゴン、キンギンカ、カンゾウ、ハクシャクを配合した製剤は、子供の急性細菌性痢疾(特に赤痢)の病状を顕著に改善した。解熱、解毒、鎮静、健胃、殺虫薬として、小児の驚疝、泄痢、黄疸、痔疾、眼の炎症などに応用する [和漢薬百科図鑑 [1] p160]。

重要文献

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook : 無記載

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ)

評価 : E

日本において医薬品としての使用実態はなく、エキスの LD50 値を考慮すれば食薬区分の見直し対象となり得ると考えられる。

名称 ゴールデンシール

他名等 カナダヒドラスチス 英名 goldenseal [Botanical Safety Handbook p 62]

部位等 根茎 備考

学名(科名) *Hydrastis canadensis* L. (Ranunculaceae) キンポウゲ科 [Botanical Safety Handbook p 62]

生薬名、基原植物和名等 ヒドラスチス [新訂牧野和漢薬草大図鑑 p 99]

医薬品として使用実態があるか No (ただしUSP Dietary supplement 並びにAmerican Herbal

Pharmacopoeia に収載) 北米のインディアンが使用した重要な民間薬である。ヒドラスチス根2gを水で煎じて服用する。また、塩酸ヒドラスチンを抽出し、これを子宮収縮薬として使用する。

毒性データ (LD50 等) hydrastinine : i.p. LD50 100 mg/kg, rat

アルカロイド、毒性タンパク、毒薬劇薬指定成分等を含むか Yes

canadine, hydrastine, hydrastinine, berberastine, tetrahydroberberastine, canadine, berberine [Weber H. A. *et al.*, *J. Agric. Food Chem.* 51, 7352-7358. (2003)]

麻薬、向精神薬及び覚醒剤様作用があるもの(類似化合物も含む)及びその原料植物であるか No

主要な二次代謝産物等

canadine, hydrastine, hydrastinine, berberastine, tetrahydroberberastine, canadine, berberine

主要な生理活性

苦味健胃、粘膜の炎症に対する鎮痙、血管収縮、子宮収縮。ヒドラスチンは生体内でヒドラスチニン、オピアン酸に酸化分解され、ヒドラスチニンは血管収縮作用があり、あらゆる止血に効力を示す。とくに鼻血や子宮の出血には著効を示す。腸および胃のカタル、鼻カタル、膣、子宮、泌尿器粘膜の炎症治療や殺菌性苦味健胃薬として用いる [新訂牧野和漢薬草大図鑑]。

重要文献

1) Weber H. A. *et al.*, *J. Agric. Food Chem.* 51, 7352-7358. (2003)

その他注意すべき点

Botanical Safety Handbook : class 2b. Not to be used during pregnancy.

Canadian regulations do not allow goldenseal as a non-medicinal ingredient for oral use products.

指定医薬品または要指示医薬品に相当する成分を含むか (情報がある場合のみ)

評価 : A

劇薬相当の hydrastinine を含有することから安全性に十分な配慮が必要であり、専ら医薬品と考えられる。